



HP Unified Functional Testing

ソフトウェア・バージョン: 12.52
Windows® オペレーティング・システム

新機能

ドキュメント・リリース日: 2016 年 1 月
ソフトウェア・リリース日: 2016 年 1 月

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1992 - 2016 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®およびAcrobat®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Google™およびGoogleマップ™は、Google Incの商標です。

Intel®およびPentium®は、Intel Coporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows®XPおよびWindows Vista ®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<https://softwaresupport.hp.com>にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスし、[**Register**] をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions統合とベストプラクティス

HP Software Solutions Now(<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) では、HPソフトウェアのカタログ記載製品がどのような仕組みで連携、情報の交換、ビジネスニーズの解決に対応するのかご確認いただけます。

Cross Portfolio Best Practices Library(<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) では、ベストプラクティスに関するさまざまなドキュメントや資料をご覧ください。

UFT 12.52 の新機能

UFT 12.52 には、次の新機能とサポートが追加されています。

- 「モバイル・テストの機能強化」(4ページ)
- 「UI オートメーション・テスト(テクノロジー・プレビュー)」(4ページ)
- 「LeanFT の機能強化」(5ページ)
- 「UFT での Business Process Testing の機能強化」(5ページ)
- 「Microsoft Edge ブラウザのサポート」(5ページ)
- 「Web アクセシビリティ・ツールキットを使用したロールベースの HTML オブジェクトのサポート(テクノロジー・プレビュー)」(6ページ)
- 「API テストのサポートの拡張」(6ページ)
- 「HPE Network Virtualization との統合」(6ページ)
- 「製品の機能強化」(7ページ)
- 「新しくサポートされた環境」(7ページ)

モバイル・テストの機能強化



クロス・プラットフォーム・テスト、ジェスチャ・サポート、データ駆動のデバイスとブラウザ、およびテキスト認識の新機能によりモバイル・テストを機能強化します。

さらに、プロキシ経由で Mobile Center に接続し、モバイル・デバイス上の Fiori アプリケーションをテストし、Business Process Monitor と統合できるようになりました。

Chrome のモバイル・エミュレータを使用すれば、Mobile Center に接続せずにモバイル・デバイスをテストすることも可能です。

モバイル・テストの詳細については、「[Mobile Center 1.52 の新機能](#)」および [Mobile Center 1.52 ヘルプの UFT の項](#)を参照してください。

[Mobile Center Readme](#) にモバイル・テストの既知の問題がリストされるようになりました(Passport が必要)。

UI オートメーション・テスト(テクノロジー・プレビュー)

Microsoft Windows UI オートメーション・フレームワークを使用して、アプリケーションをテストできるようになりました。

これにより、UFT の既存のテクノロジー・サポートがアプリケーションのテクノロジーに対応していない場合や、既存のテクノロジー・サポートではテスト・ニーズを満たすのに不十分な場合でも、そのアプリケーションを UFT で扱うことができます。

LeanFT の機能強化



LeanFT のアップデートには、Eclipse でのアプリケーション・モデルのサポートと、オブジェクトの認識の機能強化が含まれています。

また、LeanFT スクリプトを ALM からデータ駆動できるようにもなりました。LeanFT は、テクノロジー・プレビューとして JavaScript をサポートし、JavaScript SDK を提供するようになりました。

詳細については、「[LeanFT 12.52 の新機能](#)」および [LeanFT ヘルプセンター](#) を参照してください。

UFT での Business Process Testing の機能強化

Test Cases Generator による BPT テストのテスト設定の作成

UFT に組み込まれている Test Cases Generator を使用して、ビジネス・プロセス・テストのテスト設定を自動的に生成できるようになりました。

テストのパラメータについて、そのデータの複数の組み合わせを手動で作成するのではなく(これは時間のかかる処理になる可能性があります)、いくつかのアルゴリズムに基づいて、すべての組み合わせを UFT で自動的に生成します。

サポートされるアルゴリズムには、線形、ペアワイズ、またはトリプルワイズの組み合わせがあります。

BPT の実行条件

GOTO または SKIP 実行条件を使用して、ビジネス・プロセス・テストの実行方法を制御できるようになりました。

注: GOTO 条件は、ALM バージョン 12.50 パッチ 1 以降でのみサポートされています。

BPT のレポート

- ビジネス・プロセス・テストの実行結果を、Run Results Viewer スタイルのレポートだけでなく、HTML レポート形式でも表示できるようになりました。
- ビジネス・プロセス・テストについて、KPI 指標レポートを ALM で表示できるようになりました。

Microsoft Edge ブラウザのサポート



UFT のブラウザ・サポートが拡充され、Microsoft Edge ブラウザで Web ページまたはアプリケーションのテストを実行できるようになりました。

Web アクセシビリティ・ツールキットを使用した ロールベースの HTML オブジェクトのサポート (テクノロジー・プレビュー)



組み込みのツールキットを使用して、UFT が HTML ロール・プロパティをサポートするようになりました。

これにより、HTML ロール・プロパティを使用するオブジェクトを正しく認識し識別できます。

さらに、既存の Web サポートに次のオブジェクトが追加されました。

- WebMenu
- WebTabStrip
- WebTree

API テストのサポートの拡張

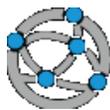


Swagger REST サービス定義ファイルから REST API をインポートできるようになりました。インポートすると、UFT は REST サービスのモデルを作成し、[ツールボックス] 表示枠に REST サービスとして追加します。

WSDL ファイルから API テストを自動的に生成できます。WSDL ファイルの場所を指定し、インポートするサービスと実行する必要があるテストのタイプを決定するだけで、UFT によってテスト (テスト・ステップとステップのプロパティ値を含む) が自動的に作成されます。このテストは UFT から実行できます。

自分のテストについて、API テストの一般的な JMS プロパティをデータ・ソース (テスト入力パラメータまたは変数) にリンクすることもできます。これにより、これらの値をアプリケーションの場合と同じ方法で動的に供給できます。

HPE Network Virtualization との統合



HPE Network Virtualization は、実際のネットワーク条件をシミュレートしテストすることで、アプリケーションの正確さ、信頼性、パフォーマンスを改善します。

UFT と Network Virtualization を統合し、さまざまなネットワーク・エミュレーションおよび条件の下で、UFT GUI テストを実行できるようになりました。

- NV テスト・オブジェクトを使用し、ネットワーク仮想化サーバにデプロイされているネットワーク・エミュレーションを開始します。
- アプリケーションのテストが終了したら、エミュレーションを停止します。
- 1 つのテストの中で、複数のネットワーク・プロファイルを組み合わせます。
- UFT の実行結果にエミュレーションの詳細を表示します。

製品の機能強化

Web Extensibility	Web Extensibility プロジェクトのオブジェクトをコンテナ・オブジェクトにして、オブジェクト・リポジトリ内のテスト・オブジェクト階層を効率的に整理できるようになりました。 詳細については、 help/Extensibility フォルダにある『Web Extensibility 開発者ガイド』を参照してください。
クイック・ウォッチ	テストのデバッグ時に、クイック・ウォッチを(別のウィンドウとして、またはテストやコンポーネント内のフローティング・ツールヒントとして)使用して、変数、オブジェクト、または式の値を表示できます。これにより、UFT デバッグの機能全体を使用せずに、短時間でテストのデバッグを実行できます。
テキスト認識	新しい Tesseract OCR テキスト認識エンジンを選択して、アプリケーションでテキスト認識を行うことができるようになりました。
ライセンス	UFT が、Autopass License Server バージョン 9.0 と統合されました。これには、ライセンスの使用状況をさらに適切に追跡するための次のような機能があります。 <ul style="list-style-type: none">• ライセンス・サーバの使用グラフ• 機能ごとの使用履歴グラフ• 使用ハブとの統合 詳細については、Autopass License Server に付属する『Autopass License Server User Guide』を参照してください。

新しくサポートされた環境

Firefox および Chrome の最新バージョンのサポートが更新されました。

特定のブラウザ・バージョンの詳細については、HP Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス ([「HP サポート・マトリクス」ページ](#)・サイトからアクセス可能) を参照してください。

UFT 12.51 の新機能

UFT 12.51 には、次の新機能とサポートが追加されています。

- 「ハイブリッド・モバイル・アプリケーションのサポート」(8ページ)
- 「Bamboo サーバ上でのテストの実行による、UFT を使用した継続的インテグレーション」(8ページ)
- 「拡張された LeanFT の機能」(8ページ)
- 「製品の機能強化」(9ページ)
- 「新しくサポートされた環境」(10ページ)

ハイブリッド・モバイル・アプリケーションのサポート

UFT で、ハイブリッド・アプリケーションおよび HP Mobile Web アプリケーションの Web オブジェクト用の Web テスト・オブジェクトを作成できるようになりました。

Bamboo サーバ上でのテストの実行による、UFT を使用した継続的インテグレーション

UFT 用に設計された特別なプラグインを使用して、Atlassian Bamboo サーバ上で継続的インテグレーション(CI)テストを実行できるようになりました。このプラグインを使用すると、ビルド・プロセスの一部としてのタスクの作成、テストの実行、およびあらゆる CI ビルドの一部としての結果の表示を行うことができます。

拡張された LeanFT の機能

LeanFT を HP Mobile Center に接続して、モバイル・アプリケーションをテスト	LeanFT と HP Mobile Center の統合により、モバイル・テストがサポートされるようになりました。この統合を使用して、Android と iOS の両方のデバイスで、ネイティブおよびハイブリッド・アプリケーションをテストできます。 詳細: http://mobilecenterhelp.saas.hp.com/en/1.50/mobilecenter_help/Content/LeanFT/LFT_Intro.htm
ALM から LeanFT テストを実行	ALM のサポートされているバージョンと新しい LEANFT-TEST タイプを使用して、LeanFT テストを実行できるようになりました。LEANFT-TEST を実行する場合、テストは指定したホスト・コンピュータ上で実行されます。実行が終了すると、結果全体および LeanFT HTML レポートが ALM に格納されます。
AUT で Java および SAP GUI オブジェクトをテスト	LeanFT 12.52 SDK には、Java および SAP GUI テクノロジーに対する完全なサポートが含まれていません。
HTML レポートの機能強化	<ul style="list-style-type: none">• メソッドの引数と値が[ステップの詳細]表示枠のテーブルに表示されます。• 失敗したステップの実行時エラーの詳細が追加されました。• [検索]バーと[次へ/前へ]エラー・ボタンが新たに追加されました。
オブジェクト識別センタおよびオブジェクト・モデル	使いやすさとパフォーマンスの向上
新しくサポートされた環境	<ul style="list-style-type: none">• Visual Studio 2015• Windows 10• Eclipse Mars (4.5)

	<ul style="list-style-type: none"> Firefox 25-26 <p>新しくサポートされたすべてのテクノロジー、バージョン、および環境の詳細については、LeanFT の「使用可能製品マトリクス」を参照してください。</p>
--	---

これらを機能をはじめとする、すべての LeanFT 12.52 機能の詳細については、[LeanFT 12.52 ヘルプセンター](#)にアクセスしてください。

製品の機能強化

このバージョンの UFT には、次の製品の機能強化が行われています。

Mobile	<ul style="list-style-type: none"> テストのサイレント実行: このパフォーマンスの向上によって、HP Mobile Center のリモート・アクセス・ウィンドウを開かずに、モバイル・アプリケーション上で UFT テストを実行できます。 Device.OpenViewer ステップを組み込むことで、テストのサイレント実行中に、必要に応じてリモート・アクセス・ウィンドウを開くことができます。これにより、テストでビットマップ・チェックポイントを実行したり、Insight オブジェクト上でステップを実行したりできます。これらのステップの実行後に、テストに Device.CloseViewer ステップを組み込んで、テストのサイレント実行を続行できます。 SSL のサポート: UFT を HP Mobile Center に接続する際に、SSL を使用できるようになりました。 ジェスチャのサポート: マウスまたはその他のポインティング・デバイスを使用して、HP Mobile Center のリモート・アクセス・ウィンドウ内で直接、デバイス上のアプリケーションをパン (iOS)、スワイプ、ロング・タップできるようになりました。
BPT	<ul style="list-style-type: none"> テストのコンポーネントに異なるアドインに基づくアプリケーション領域が含まれている、ビジネス・プロセス・テストを実行できるようになりました (以前は、最初のコンポーネントのアプリケーション領域のアドインに基づいてテストが実行されていました)。 手動コンポーネントを自動 UFT コンポーネントに自動的に変換できます。 ビジネス・コンポーネントを Sprinter XML データ・ファイルから直接作成できます。 [ツールボックス] 表示枠の新しいボタンを使用することにより、コンポーネントのビジネス・プロセス・テストへの追加時に、コンポーネント・パラメータをテスト・パラメータに昇格できます。 テストの作成時に、自動パラメータ化のレベル (ユーザ入力オブジェクトまたはすべてのオブジェクト) を選択できます。
Flex	FlexTable オブジェクトに、 GetColumnName メソッドが組み込まれました。
SiebelOpenUI	<ul style="list-style-type: none"> SbIOUICheckBox オブジェクトを使用すると、3 状態のチェック・ボックスをテストできます。 ほとんどのオブジェクトが、Repository Name (RN)、UI Name (UN)、および TO (Test Object) 認識プロパティをサポートするようになりました。 SbIOUIDropDownButton.IsEnabled、SbOIUITable.IsRowExpanded、および SbIOUICombobox.Select メソッドを使用すると、ドロップダウン・ボタンとテーブル・オブジェクトのテスト時に、特別なシナリオに対応できます。
DevExpress アプリケーションのサポート	UFT が DevExpress アプリケーションをサポートするようになり、多数の新しいメソッドが .NET Windows Forms Add-in に追加されました。
実行結果	<ul style="list-style-type: none"> [電子メールで送信] オプションを使用すると、UFT の [レポート] タブから HTML レポートを電子メールで直接送信できます。 [実行結果] タブの新しい [検索] フィールドを使用すると、実行結果を検索できます。 [次のエラー] および [前のエラー] ボタンを使用すると、エラーをすばやく切り替えることができます。 HTML レポートを直接 Jenkins プラグインに埋め込むことができるため、UFT を開いたり、実行結果フォルダに移動して結果ファイルを探したりしなくても、レポートをその他のビルド後のドキュメントとともに開くことができます。

	Jenkins プラグインの詳細については、 https://wiki.jenkins-ci.org/display/JENKINS/HP+Application+Automation+Tools を参照してください。
ライセンス	デモ・ライセンスがサーバ・ベースのオペレーティング・システムで動作するようになりました。

新しくサポートされた環境

UFT 12.51 では、次の新しいテクノロジーとフレームワークがサポートされています。

- Firefox および Chrome の最新バージョンのサポートが更新されました。特定のブラウザ・バージョンの詳細については、『HP Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス』を参照してください。
- Windows 10
- .NET Framework 4.6
- Visual Studio 2008 または mingw gcc 4.8.2 でビルドされた QT 4.8 アプリケーション
- TE Attachment Reflection for UNIX open VMS 14.1
- TE Micro Focus Rumba 9.3
- TE Attachmate Extra!X-treme 9.3
- Flex 4.14
- SiebelOpenUI 8.1.1.14 SIA
- DevExpress 10.1.5 および 15.1

UFT 12.50 の新機能

UFT 12.50 には、次の新機能とサポートが追加されています。

本項には、次の項目が含まれています。

- ・「モバイル・アプリケーションのテスト機能の拡張」(11ページ)
- ・「さまざまなブラウザでの UFT の Web オブジェクト認識の調整」(12ページ)
- ・「Firefox 用の新しい UFT 拡張」(12ページ)
- ・「Lean Functional Testing(LeanFT)を使用して慣れ親しんだ開発 IDE で機能テストを作成」(12ページ)
- ・「BPT テストを UFT で作成して実行するための強化機能」(13ページ)
- ・「BPT パッケージ・アプリ・キットを使用した BPT による SAP アプリケーションのテスト」(14ページ)
- ・「軽量の HTML ベースの実行結果レポート」(14ページ)
- ・「関数ライブラリをソリューション項目として追加」(15ページ)
- ・「GIT ソース・コード・リポジトリとの統合」(15ページ)
- ・「UFT IDE がない状態での UFT テストの実行」(15ページ)
- ・「新しいライセンス・メカニズム」(15ページ)
- ・「キーワード・ビューの使いやすさの向上」(15ページ)
- ・「EXT-JS ツールキットで設計されたアプリケーションに対する新しいサポート」(16ページ)
- ・「バージョン 12.50 での製品の機能強化」(16ページ)
- ・「UFT 12.50 での新しい環境のサポート」(16ページ)

モバイル・アプリケーションのテスト機能の拡張

- ・オブジェクト・スパイを使用して、モバイル・アプリケーション内のコントロールを調査し、そのプロパティを取得できるようになりました。調査はアプリケーション内のコントロールをクリックするだけで実行できます。
- ・モバイル・アプリケーション内でテスト・オブジェクトを強調表示できます。オブジェクト・リポジトリでテスト・オブジェクトを選択すると、コントロールがモバイル・アプリケーション内で自動的に強調表示されるようになります。
- ・テストの記録中に、任意のテスト・オブジェクトに対して標準、ビットマップ、テキストの各チェックポイントを追加できるようになりました。
- ・1つの記録セッションまたは実行セッションの間に、複数のアプリケーションに対して操作を実行できます。後に続く各アプリケーションでステップを記録または編集する前に、記録および実行の設定を変更します。
- ・UFT ツールバーのボタンをクリックして、テストしたいデバイスおよびアプリケーションが含まれているリモート・アクセス・ウィンドウを開けるようになりました。ボタンをクリックすると、テストするデバイスとアプリケーションを指定するダイアログ・ボックスが開きます。デバイス上でアプリケーションのインストール、再インストール、再起動のいずれを行うかを指定することもできます。

さまざまなブラウザでの UFT の Web オブジェクト 認識の調整

UFT 12.50 では、あらゆるブラウザに対してより統一されたテストを作成するための多くの機能強化が行われています。

- いくつかの Web オブジェクト (**Browser**, **WebEdit**, **WebNumber**, **WebRange**, **WebList**, **WebFile** など) の一部のプロパティが、複数のブラウザタイプ間で統一されたプロパティとなるように調整されました。
- 追加 Web オブジェクトが、Chrome を含むすべてのブラウザでサポートされるようになりました。
- [記録と実行環境設定] ダイアログ・ボックスのデータ・テーブル・パラメータまたはテスト・パラメータを使用することで、テストの実行セッションまたは記録セッションに対してブラウザ・タイプを設定できます (テスト実行ごとにブラウザ・タイプを手動で変更する必要はありません)。
- Chrome 記録で、[Web イベント記録の設定] を変更する機能がサポートされるようになりました。

Firefox 用の新しい UFT 拡張

Firefox 用の UFT 拡張が変更され、Firefox の複数のバージョンで同じ拡張を使用できるようになりました。このため、Firefox の新バージョンがリリースされるたびに拡張をアップグレードする必要はありません。

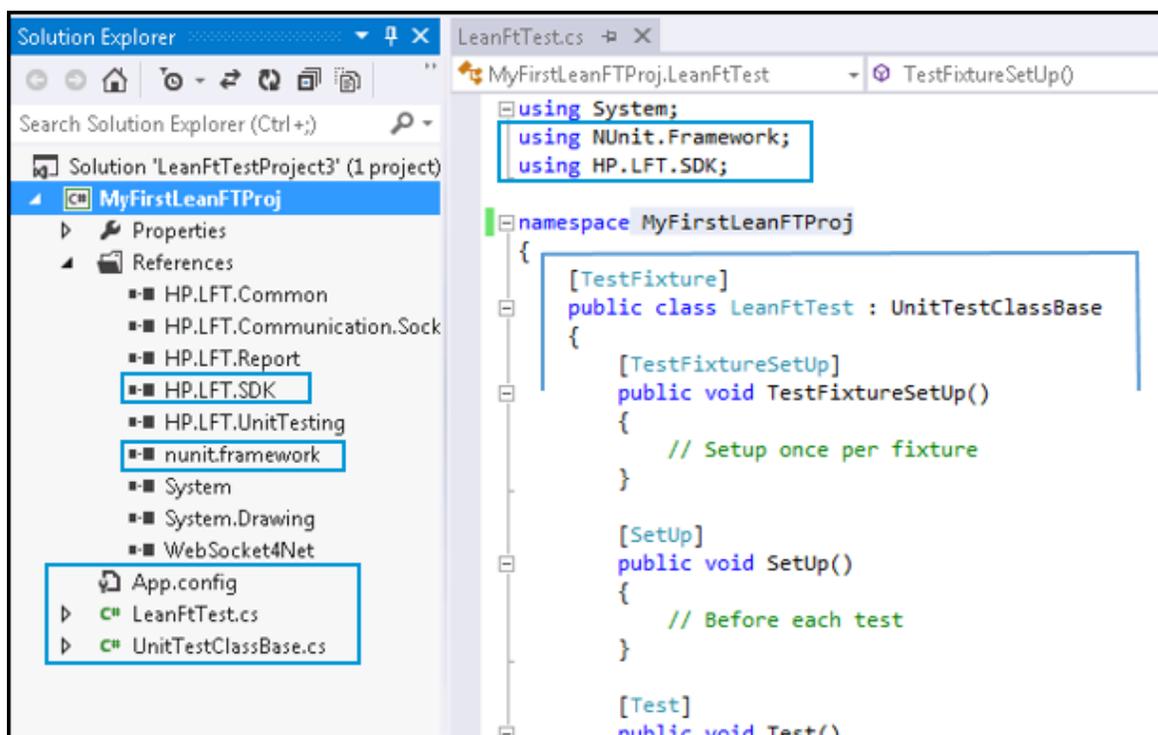
この拡張は、UFT のインストール後に初めて Firefox を開いたときから標準設定で利用可能です。Firefox を開いたら、この拡張を有効にしてください。

注: UFT Agent for Firefox は Firefox バージョン 33 以降でサポートされています。33 より前の Firefox バージョンをテストする場合や、Java アプレット・テストの実行が必要な場合は、従来の Firefox エージェントを使用する必要があります。詳細については、『*HP Unified Functional Testing アドイン・ガイド*』の「Web Add-in のクイック・リファレンス」を参照してください。

Lean Functional Testing(LeanFT) を使用して慣れ親しんだ開発 IDE で機能テストを作成

経験豊富な UFT ユーザは、LeanFT を使用することで、Visual Studio, Eclipse のような開発用 IDE で C#, Java などの言語を使用して Test Automation を作成できるようになりました。

LeanFT には最も一般的な AUT テクノロジーを対象とする包括的な SDK があり、オブジェクトのメンテナンスと高速コード生成のための特殊プラグイン・ツールが用意されています。



LeanFT は、HP Unified Functional Testing(UFT) ユーザーが容易に習熟できるように設計されています。SDK オブジェクト・モデルには、よく似た機能のテスト・オブジェクトとテスト・メソッドが揃っています。また、LeanFT アプリケーション・モデルおよびオブジェクト 識別センター ツールには、オブジェクト・リポジトリとオブジェクト・スパイに似た機能のほか、C#または Java コードを容易に生成するための追加機能が用意されています。

LeanFT は、ALM などの HP 製品との統合も提供しています。また、Jenkins などの継続的統合システムに LeanFT テストを統合することもできます。

LeanFT は、UFT インストール・ウィザードからインストールできます。お持ちの UFT ライセンス・キーを使用することで、同じコンピュータ上で LeanFT を有効にすることができます。

また、UFT がインストールされていないコンピュータ上にスタンドアロン・バージョンの LeanFT をインストールすることもできます。

詳細については、Lean Functional Testing ヘルプセンターを参照してください。<http://leanft-help.saas.hp.com/en/12.52/HelpCenter/Default.htm>

BPT テストを UFT で作成して実行するための強化機能

UFT で Business Process Testing を使用する機能が、次のように改善されました。

- BPT ビューを使用することで、UFT で Business Process Testing のワークフローを効率化できます。BPT ビュー(Business Process Testing ユーザー向けに用意された、UFT 開始 ページの別バージョン)では、一般的な多くのビジネス・プロセス・テスト・タスク(ALM への接続、Business Process Testing のグローバル設定の構成、ビジネス・プロセス・テスト/フローやビジネス・コンポーネントの作成またはオープン、ビジネス・プロセス・テスト/フローやビジネス・コンポーネントの記録開始、SAP アプリケーションのテスト/フローの学習など)を簡単に開始できます。

- **テストのキャンバス・ビューの追加**:ビジネス・プロセス・テストを開くときに、グリッド・ビューのほかにキャンバス・ビュー(ALMと同じようなビュー)でもテストを表示できます。このビューでは、別の視覚的表現でテストが表示されます。キャンバスには、テスト・フローの全体が表示されるだけでなく、テストに含まれるコンポーネント間のリンクも表示されます。
- **テスト内の反復で使用するパラメータ値をエクスポート/インポートする機能**:テスト・コンポーネントのパラメータ構造をExcelにエクスポートし、それらのパラメータ値を反復ごとに変更できるようになりました。Excelで値を変更したら、そのスプレッドシートをテストに再インポートし、新しいパラメータ値をテスト実行に使用できます。さらに、ALMの[テスト設定]でExcelを使用し、テスト・ラボのテスト実行に用いることもできます。
- **ビジネス・プロセス・テストの記録**:ビジネス・プロセス・テストのすべてのステップを同時に記録できるようになりました。記録セッションを開始したら、必要に応じてコンポーネントを追加し、テストを別々のユニットに分割します。ステップは関連するコンポーネント内に記録され、テスト・オブジェクトはコンポーネントのローカル・オブジェクト・リポジトリで保存されます。これにより、これらのオブジェクトが後で使用できるようになります。
- **アプリケーション内の全部または一部のオブジェクトをワン・クリックでキャプチャする機能**: [キャプチャ] ツールバーを使用して、アプリケーション内のすべてのオブジェクト、またはアプリケーションの一領域内のすべてのオブジェクトをワン・クリックでキャプチャできます。これらのオブジェクトは、コンポーネントのローカル・オブジェクト・リポジトリに自動的に保存され、後で使用できるようになります。これにより、オブジェクト・リポジトリを別々に開き、そのリポジトリにオブジェクトを追加し、オブジェクト・リポジトリをアプリケーション領域に関連付け、そのアプリケーション領域をコンポーネントに関連付けるという一連の操作が必要なくなるため、コンポーネントとテストの作成にかかる時間を短縮できます。
- **ビジネス・プロセス・テストをさまざまなテスト設定でUFTから直接実行**:これまで、ALMからビジネス・プロセス・テストを実行するときのテスト設定を使用するだけでしたが、異なるテスト設定でUFTから直接テストを実行できるようになりました。これにより、特定のビジネス・プロセス・テスト実行で使用するデータを容易に変更できるようになったため、実行前に、コンポーネントとテスト内の複数のパラメータを手動で変更する必要はありません。

BPT パッケージ・アプリ・キットを使用したBPTによるSAPアプリケーションのテスト

BPT パッケージ・アプリ・キットを使用して、ビジネス・プロセス・テストによるSAP GUIまたはSAPUI5アプリケーションのテストとフローを容易に作成できるようになりました。これにより、次のことが可能です。

- **アプリケーションのコンポーネントを学習してテストを作成**:SAPアプリケーションの領域ごとに個々のコンポーネントを作成するのではなく、アプリケーションの領域に応じてUFTにコンポーネントを学習させることができます。UFTは、アプリケーションのその領域のトランザクションを自動的に識別し、トランザクションごとに別々のビジネス・コンポーネントを作成します。学習セッションが終了すると、UFTの学習結果が示され、ユーザは保持するコンポーネントと破棄するコンポーネントを選択できます。
- **変更検出モードでのテスト実行と変更点によるコンポーネントの更新**:SAPアプリケーションでのテストを変更検出モードで実行できます。これにより、アプリケーション内の変更点をUFTに比較させ、アプリケーションの変更点に基づいてコンポーネントを更新できます。実行が終了した時点で変更点のサマリを表示し、更新の対象を決定できます。

注: 変更検出モードを使用できるのは、ALM 12.21、ALM 12.01 パッチ 2 以降、または ALM 11.52 パッチ 7 以降を実行している ALM サーバのみです。

軽量のHTMLベースの実行結果レポート

テストまたはコンポーネントを実行したら、軽量かつ高速なHTMLベースのレポートで実行結果を確認で

きます。このレポートには、テスト実行またコンポーネント実行のすべてのデータ(テスト・フローのステップに関する情報、エラー情報、テスト・オブジェクトおよびアプリケーション内のオブジェクトに関する情報、スタック・トレース情報など)が含まれます。また、ほかの実行結果のリソース(画面キャプチャ、データ・テーブルなど)も HTML 実行結果レポートからのリンクとして表示できます。

HTML レポートは、エクスポートしたりほかのユーザに送ったりすることもできます(そのユーザのコンピュータに Run Results Viewer をインストールする必要はありません)。

注: HTML レポートは、コンパクトで高速な実行結果レポートになるように設計されています。Run Results Viewer の全機能が含まれているわけではありません。すべての機能が必要な場合は、[オプション]ダイアログ・ボックスの[実行セッション]表示枠([ツール]>[オプション]>[一般]タブ>[実行セッション]ノード)を使用して、結果を Run Results Viewer で開くように UFT を設定する必要があります。

関数ライブラリをソリューション項目として追加

テスト、コンポーネント、アプリケーション領域とまったく同じように、関数ライブラリをソリューションに追加できるようになりました。これにより、テストに関連付けられていない場合でも、関数ライブラリをソリューションとともに保存できます。

注: 関数ライブラリをソリューションに追加しても、テスト、コンポーネント、アプリケーション領域との関連付けには影響しません。

GIT ソース・コード・リポジトリとの統合

GIT ソース・コード・リポジトリ内の UFT テストを UFT から直接使用できるようになりました。ソリューション・エクスプローラを使用して、ローカル・リポジトリに変更をコミットしたり、リモート・リポジトリに変更をプッシュしたりできるため、UFT で作業する前に、エクスプローラや Git Bash コマンドを使用して更新する必要がなくなりました。

UFT IDE がない状態での UFT テストの実行

フル版の UFT IDE がインストールされていなくても、UFT テストを(ALM, Test Batch Runner, 継続的統合プラグインなどのツールから)実行できるようになりました。UFT をインストールするときに、ランタイム・エンジン・コンポーネントのみのインストールを選択できます。ランタイム・エンジンをインストールしたら、関連する設定をインポートまたは構成して、テストを適切に実行できます。

新しいライセンス・メカニズム

UFT が、ライセンス・メカニズムとしてオートパスを使用し、オートパス・ライセンス・サーバとの統合を使用するように変更されました。これにより、シート・ライセンス、コンカレント・ライセンス、またはコンピュータ・ライセンスは、ライセンスのチェックアウト、チェックイン、インストールの各手順を補助する外部ツールを使用せずに、1つのライセンス・ウィザードでインストールできます。オートパス・ライセンス・サーバを使用して、コンカレントとコンピュータのすべてのライセンスを1か所から管理することもできます。

UFT に付属するオートパス・ライセンス・サーバは FIPS に準拠しており、UFT とライセンス・サーバ間の通信プロトコルとして HTTP/HTTPS を使用します。このライセンス・サーバは、IPv6 アドレスの使用もサポートしています。

キーワード・ビューの使いやすさの向上

UFT のキーワード・ビューでいくつかの改善が行われ、操作性が向上しています。

- メソッドのパラメータを入力するときに、[パラメータ]カラムの別のセクションをクリックする必要がなくなりました。これから入力するパラメータを示すツールヒントが指示されるようになり、パラメータ情報をタイプインするだけで入力できるようになりました。
- テスト・オブジェクト階層がフラットなので、アクションやコンポーネントに含まれているステップをより簡単に確認できます。
- パラメータが取り得る値を選択するときは、キーワード・ビューからパラメータを直接追加できます。[プロパティ]表示枠に戻って、パラメータを追加する必要はありません。

EXT-JS ツールキットで設計されたアプリケーションに対する新しいサポート

Sencha EXT-JS ツールキットで作成された Web アプリケーションのテストが UFT でサポートされるようになりました。このツールキットは、Web 2.0 ツールキットとしてインストールされ、EXT-JS アプリケーションの Web サポートを拡張します。

バージョン 12.50 での製品の機能強化

- **Flex:** UFT Flex Add-in が、新しいメソッドを使用して、FlexTreeView オブジェクト内の埋め込みコントロールをサポートするようになりました。
- **SAP:** Add-in for SAP Solutions が、**SAP WebDynpro Java(WDJ)** アプリケーションと **SAP Fiori** アプリケーションをサポートするようになりました。
さらに、Firefox および Chrome ブラウザで SAPUI5 Add-in がサポートされるようになりました。
詳細については、『HP UFT Object Model Reference for GUI Testing』の「**SAPWDJ**」および「**SAPUI5**」の項を参照してください。
- **SiebelOpenUI:** SiebelOpenUI ツールキットが、SblOUIDropDownButton オブジェクトでドロップダウン・リスト付きのボタンをサポートするようになりました。
- **Oracle:** Oracle Add-in が、OracleFormWindow オブジェクト用の新しいメソッドで、Oracle アプリケーション内のメニューをサポートするようになりました。

UFT 12.50 での新しい環境のサポート

- Firefox および Chrome の最新バージョンのサポートが更新されました。特定のブラウザ・バージョンの詳細については、『HP Unified Functional Testing 使用可能製品マトリクス』を参照してください。
- Safari 7.1 および 8
- Siebel 8.1.1.11 高インタラクティブ
- Siebel 8.2.2.4 高インタラクティブ
- Flex 3.6 および 4.1.0
- SAPGUI 7.4
- Delphi XE7
- Hummingbird HostExplorer14(64ビット) TE
- PowerBuilder 12.6
- Oracle 12.2.4
- VMware ESXi 5.5
- ASP .NET AJAX 4.1.5
- Ext-JS 4.2.2 および 4.2.3

- Google Web Toolkit(GWT) 2.7

フィードバックの送信



新機能の改善点について、フィードバックをお寄せください。

フィードバックの送信先 : docteam@hpe.com

